

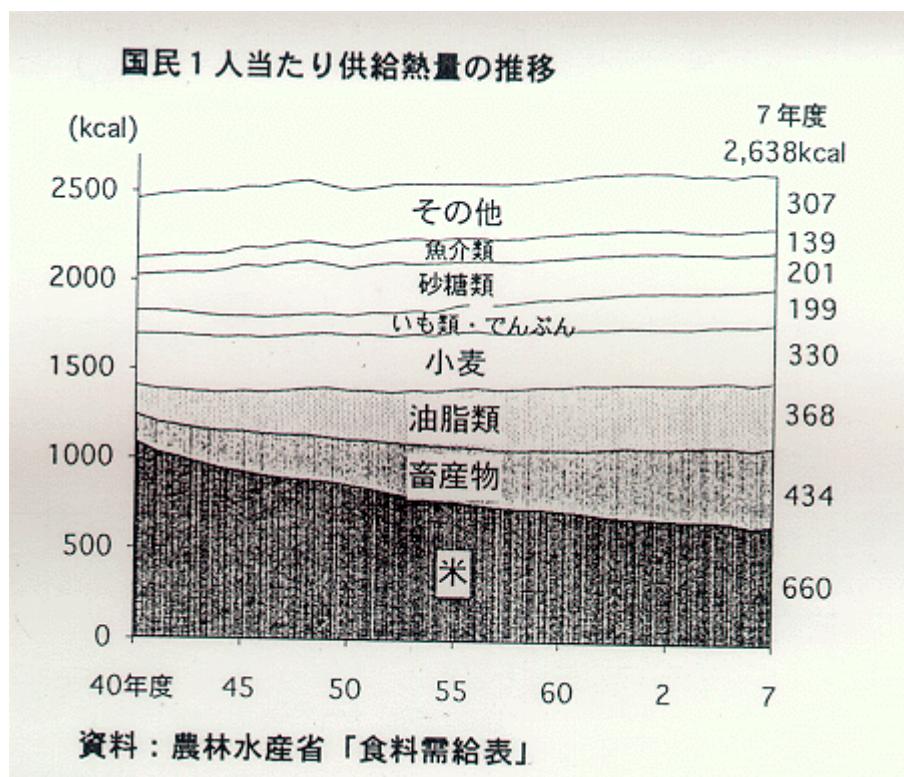
II 我が国の食料・農業・農村をめぐる情勢

1 食料需給

(1) 食料消費と食生活

我が国の食生活は所得水準の向上に伴い、主食である米の消費が減少する一方、輸入飼料穀物等に依存せざるを得ない畜産物等の消費が増加するなど多様化・高度化してきている。

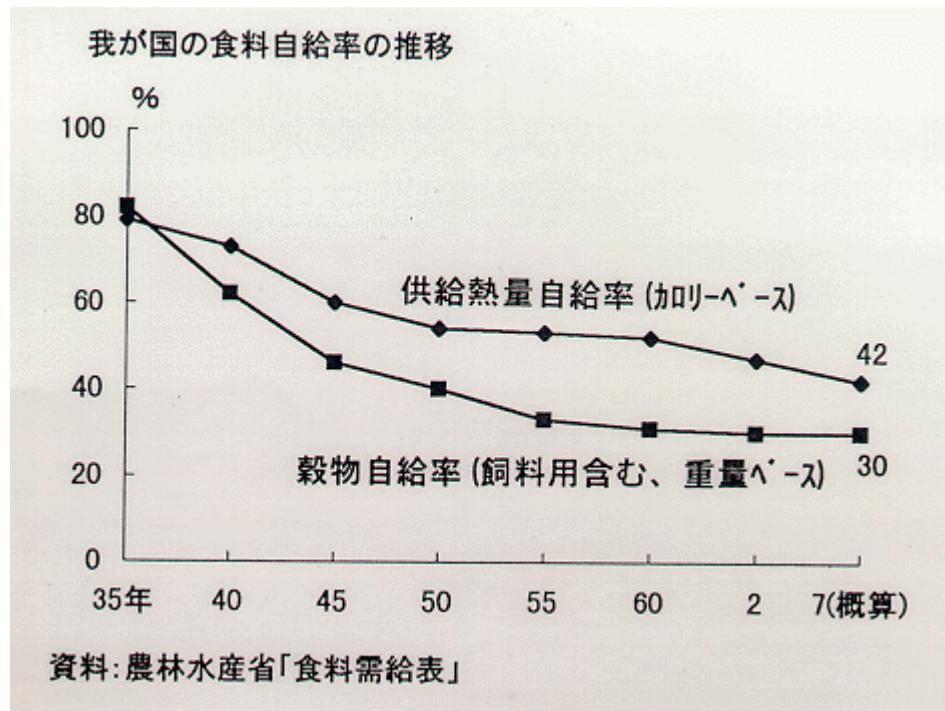
1人1日当たりの供給熱量(カロリー)については、2,600kcal程度とほぼ飽和水準に達したものとみられている。



(2) 食料自給率

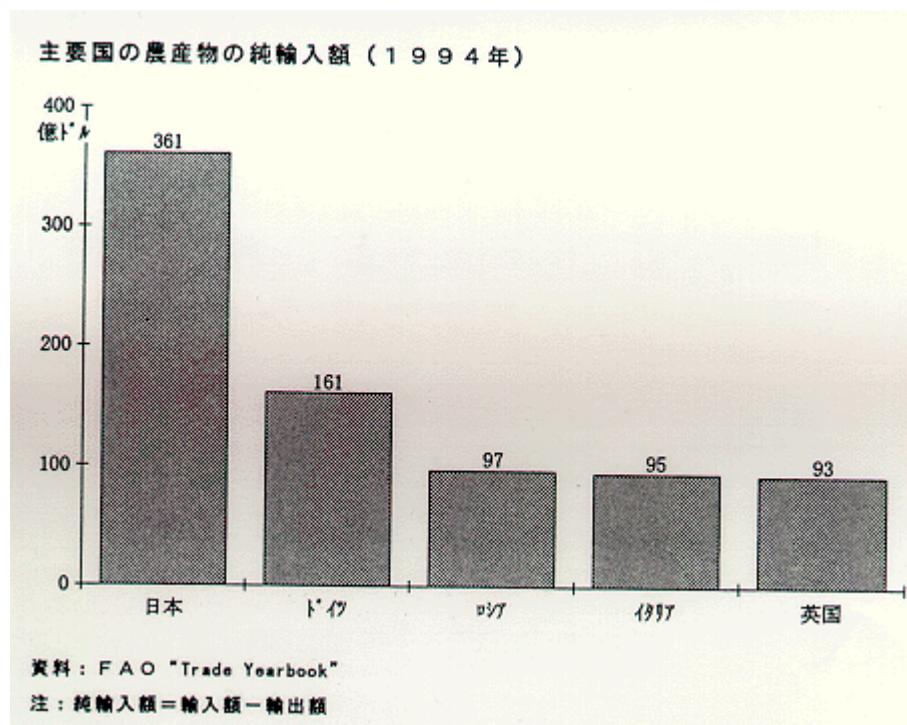
米の消費の減少や、畜産物消費の増加による輸入穀物の増大等を背景に、自給率(カロリーベース)は、平成7年度には42%まで低下している。

また、穀物自給率は、30%となっており、世界163ヶ国中111番目であって、主要先進国中では最も低い水準となっている。

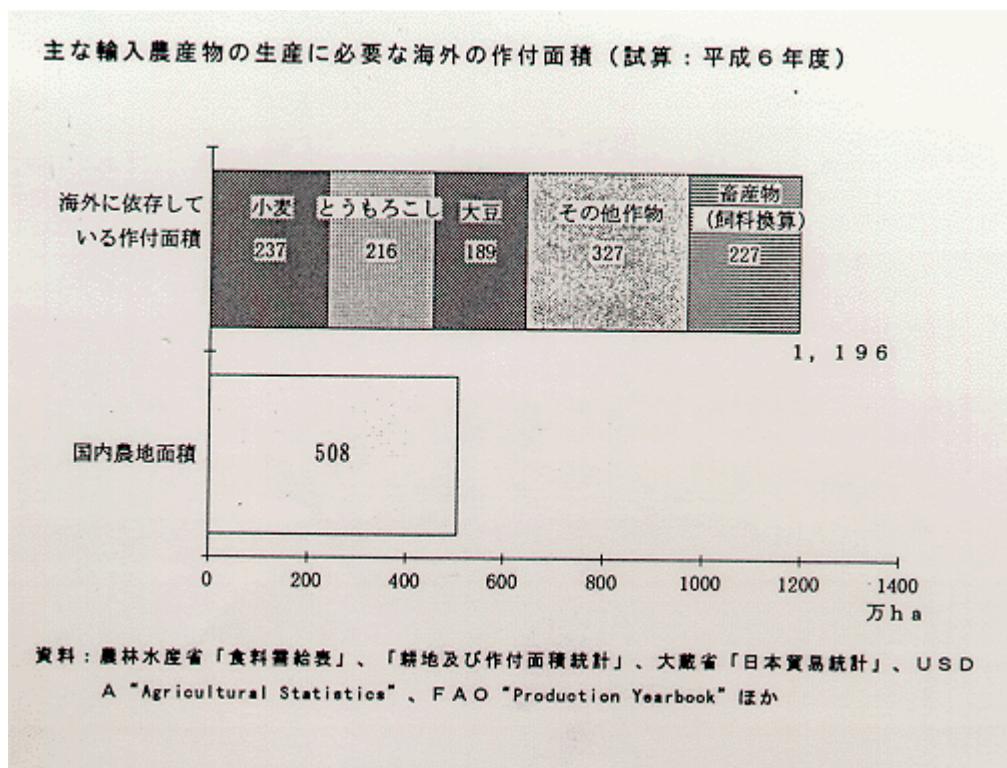


(3) 農産物貿易

昭和59年以降、我が国は世界第1位の農産物純輸入国となっている。
我が国は、人口では世界全体の2%に相当するが、輸入する食料では、
世界の農産物貿易額の9.3%を占めている。



我が国が輸入している主要農産物の生産に必要な海外の農地面積は、約1,200万haとなっている。これは、国内農地の約2.4倍に相当する。



(4) 農業生産

農業総産出額(農家段階の出荷額)については、約20年間にわたり約1兆円とほぼ横ばいで推移している。

品目構成は、米(3割)、野菜(2割強)、畜産(2割強)で全体の4分の3を占めている。

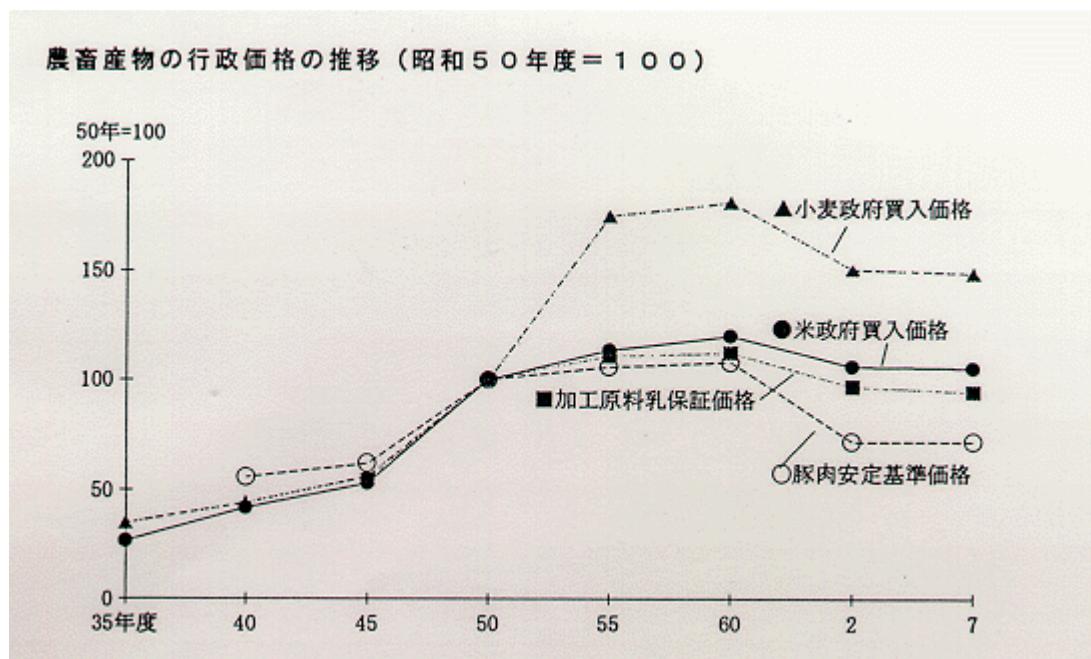
農業総産出額と品目別構成の推移

	35年	40	45	50	55	60	2	7
農業総産出額(兆円)	1.9	3.2	4.7	9.1	10.3	11.6	11.5	10.4
うち、米 (%)	47.4	43.1	37.9	38.3	30.1	32.9	27.8	30.4
野菜	9.1	11.8	15.8	16.2	18.5	18.1	22.5	22.5
果実	6.0	6.6	8.5	7.1	6.7	8.1	9.1	9.2
花き	0.5	0.6	0.9	0.9	1.7	2.0	3.3	4.1
畜産	15.2	20.9	23.2	25.9	29.9	27.2	26.8	24.3
うち、乳用牛	3.3	4.6	6.1	6.3	7.9	7.6	7.9	7.6
肉用牛	2.0	2.4	2.1	2.7	3.6	4.1	5.2	4.4

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

(5) 農産物価格

農産物の生産者価格の推移をみると、昭和50年代以降、横ばい傾向で推移しており、現行の行政価格は、昭和50年代初頭の水準となっている。



食料品の小売価格の内外価格差をみると、東京は海外主要都市に比べて2～3割程度高くなっている。

各都市の一般小売店舗で販売されている共通食品でみた食料品の内外価格差
(東京=100,平成7年11月)

品目	ニューヨーク	ロンドン	パリ	ワイン	コペンハーゲン
食料品総合	75	70	83	85	106
穀類	76	44	89	74	65
魚介類	63	84	99	127	106
肉類	83	90	88	96	125
卵類	62	64	90	84	107
野菜・海藻	74	81	65	75	115
果物	86	49	83	61	82
油脂・調味料	65	66	92	107	95
菓子類	93	44	83	64	99
飲料	38	37	55	67	81

資料:農林水産省「東京及び海外主要5都市における食料品の小売価格調査」

注1:東京のCPIウェイトで加重平均している。

注2:適用為替レート、米ドル 103.01円/\$、英ポンド 163.51円/\$、仏 Franc 21.30円/F
オーストリアシリング 10.38円/S、デンマーククローネ 18.89円/DKr

我が国は、国土面積が小さく、平坦な土地が少ない。また、農地価格、

賃金、生産資材価格、光熱料金も割高となっており、諸外国と比べて、農産物の生産コストが割高とならざるを得ない面がある。

農地条件、賃金、生産資材価格、光熱料金の日米比較(1995年)

	日本	米国	日本/米国
農地条件			
農家1戸当たり農用地面積(ha)	1.5	189.8	1/127
農地価格(千円/10a)	1,697	15.0	113倍
製造業賃金(円/h)			
	2,206	1,233	1.8倍
生産資材価格(硫安・円/t)			
	33,650	20,650	1.6倍
		~18,020	~1.9倍
電気料金(円/kwh)	17.4	4.4	4.0倍
ガソリン価格(円/リットル)	108.1	28.5	3.8倍

資料:農林水産省調べ

注:電気は産業向け販売価格、ガソリンはスタンド等における平均小売価格である。

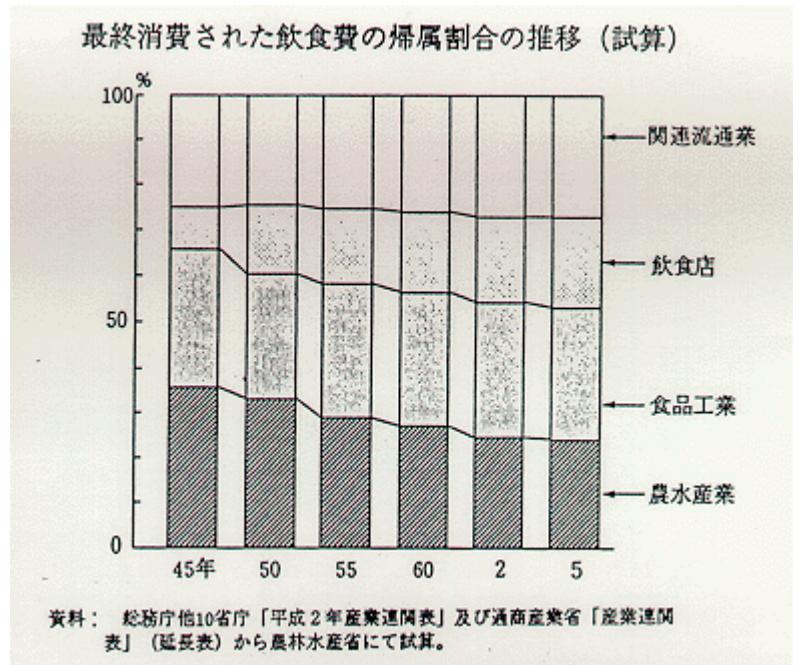
(6)食品産業

食品産業は、加工食品の増加、食の外部化・サービス化等に伴い大きく成長している。

最終消費される飲食費のうち、農水産業に帰属する割合は23%であり、大半は加工・流通業に帰属している。

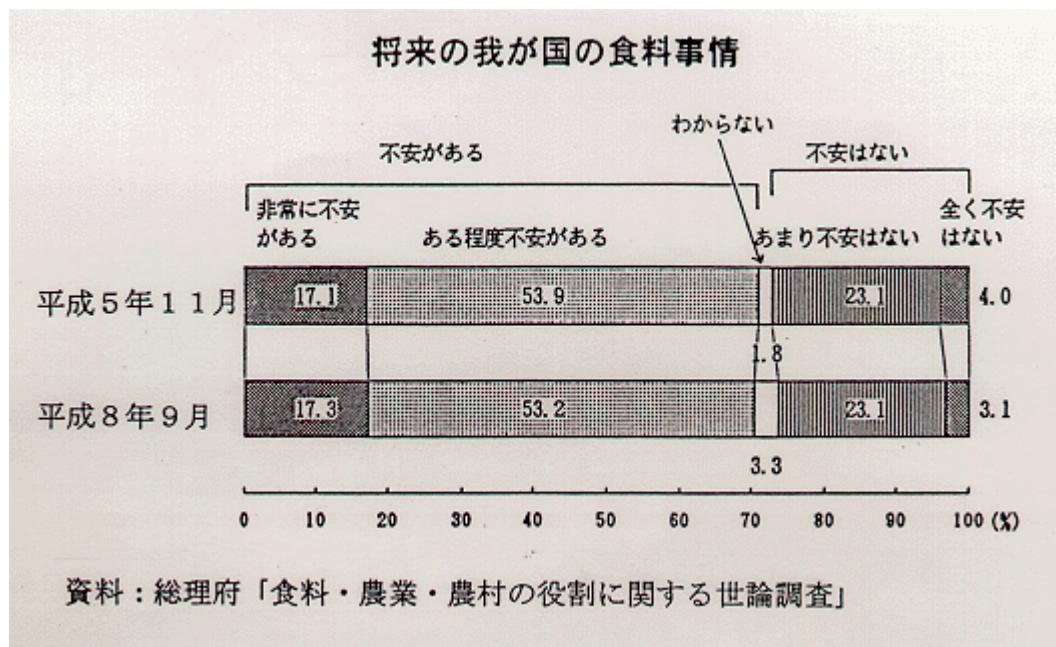
最終消費された飲食費の推移(単位:兆円)

45年	50	55	60	2	5
14.7	31.4	46.8	57.8	68.1	72.5



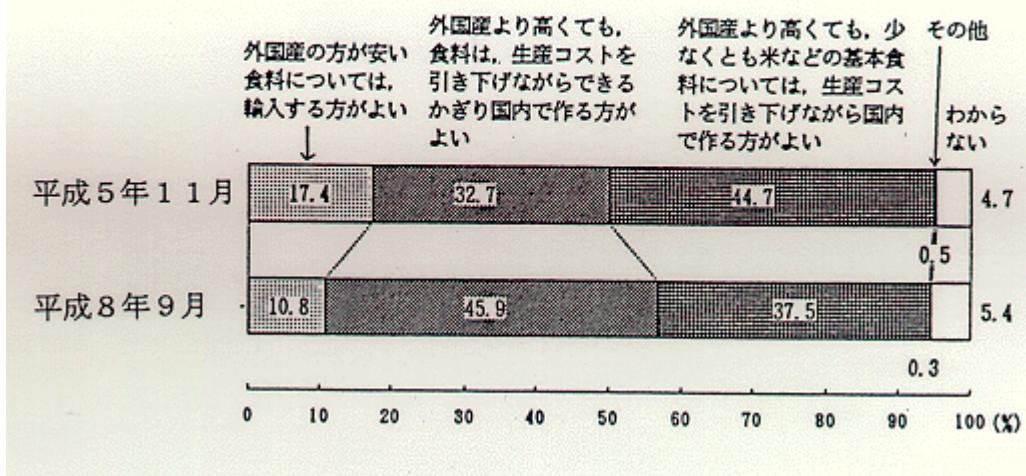
(7) 食料についての国民の意識

将来の我が国の食料事情については、**国民の約7割が不安を抱いている**。

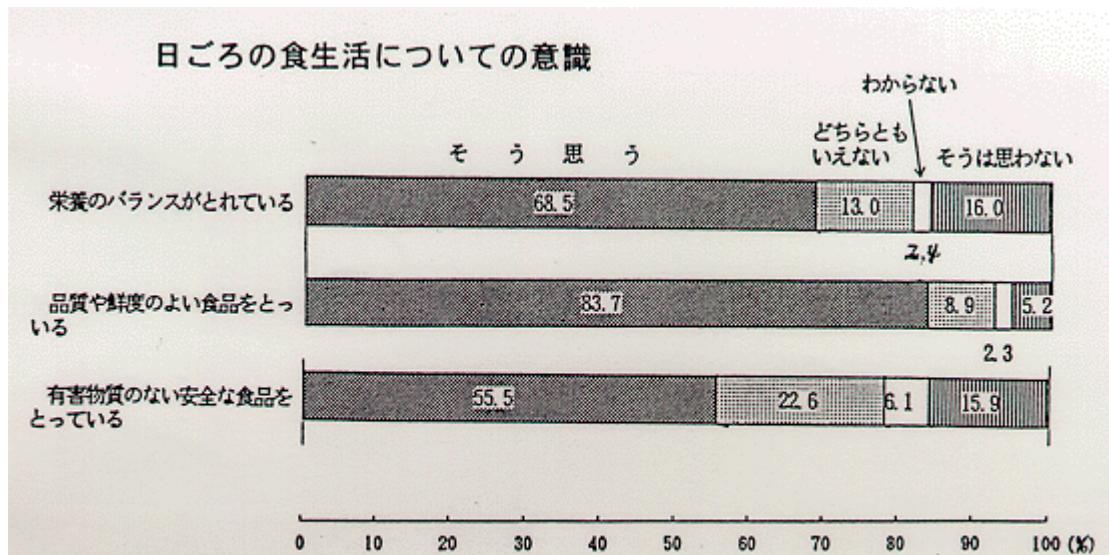


また、我が国の食料の生産・供給のあり方については、**外国産より高くても、生産コストを引き下げながらできる限り国内で作る方がよいと考える者が8割以上にのぼっている**。

我が国の食料の生産、供給のあり方



日頃の食生活において、栄養面と同時に、品質・鮮度や安全性に対する消費者の関心が高まっている。



資料：総理府「食料・農業・農村の役割に関する世論調査」